

情報公開用文書（附属市民総合医療センターで実施する医学系研究）

(単施設研究用)

西暦 2020年 12月 17日作成 第 1版

研究課題名	慢性硬膜下血腫の重症化・予後決定因子のための探索的研究
研究の対象	2007年1月1日から2020年11月30日までに横浜市立大学附属市民総合医療センターで慢性硬膜下血腫に対して穿頭ドレナージ術を施行した患者さんで定期画像フォローを行い、かつ18歳以上で出血傾向をきたす基礎疾患のない患者さんを対象とします。
研究目的 ・方法	<p>慢性硬膜下血腫は、外傷後の慢性期に発症する脳外科領域の common disease として知られています。進行性の頭蓋内圧亢進症状や神経症状を呈した場合には外科的治療（穿頭ドレナージ術）の適応となります。一般には予後良好であるが、罹患年齢層が高いことから、重症化や再発による長期的生命・機能予後の悪化が示唆されており、重症化予測と再発因子の検討が重要視されてきています。</p> <p>ドラッグリポジショニングは、既存薬や開発中もしくは開発中止となった医薬品・化合物（以下、既存の医薬品）を活用し、当初想定していた疾患とは異なる疾患の治療薬として転用する開発手法のことであり、特に medico-economical な観点で新薬開発において注目されており、近年では、血液脳関門の存在により新規薬剤開発の困難な中枢神経系疾患においても注目されています。</p> <p>本研究では、GSDH 症例の術前使用薬剤・重症度・血腫量・転機を後方視的に解析して重症化と再発に関与する因子を検討するとともに、DR の観点からこれらに影響する薬物について検討して、将来的な GSDH の新規治療選択肢の探索を行います。</p>
研究期間	西暦 2021年 2月 19日（承認日）～ 西暦 2021年 5月 31日
研究に用いる 試料・情報 の種類	性別、年齢、身長、体重、既往歴、術前の症状、術前から術後約3カ月に至るまでの画像所見（主に頭部CT）の経過、内服薬状況をカルテ記載および画像データから抽出します。
<p>本研究に関するご質問・ご相談等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。</p> <p>ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますので下記連絡先まで電話またはFAXでお申出下さい。</p> <p>また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはございません。</p>	

情報公開用文書（附属市民総合医療センターで実施する医学系研究）

（単施設研究用）

問合せ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒232-0024 横浜市南区浦舟町 4-57

横浜市立大学附属市民総合医療センター 脳神経外科（研究責任者）下吹越 航

電話番号：045-261-5656（代表） FAX：045-231-1846